

企画展「青根九江 ー京で花開いた彦根の文人画家ー」展示作品リスト

| 資料名称 | 作者 | 数量 | 品質形状 | 制作年 | 所蔵者 | 展示期間 | |
|--------|--------------------------------|----------------|------------|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------|
| 華麗なる花鳥 | | | | | | | |
| 1 | 花鳥図 | 青根九江 | 1幅 | 絹本著色 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 2 | 花鳥図 | 青根九江 | 1幅 | 絹本著色 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 3 | 花鳥図 | 青根九江 | 1幅 | 絹本著色 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 4 | 花鳥図 | 青根九江 | 1幅 | 絹本著色 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 5 | 花鳥図 | 青根九江 | 1幅 | 絹本著色 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 6 | 花鳥図 | 青根九江 | 1幅 | 絹本著色 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 7 | 旭日に鶏図 | 青根九江 | 1幅 | 絹本著色 | 江戸時代後期 | 個人 | 6/21-7/8 |
| 8 | 秋草に鶉図 | 青根九江 | 1幅 | 絹本著色 | 江戸時代後期 | 個人 | 7/9-7/23 |
| 9 | 芦雁図 | 青根九江 | 1幅 | 絹本墨画淡彩 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 10 | 花鳥図 ①菊図 ②蓮に翡翠図 ③花卉に雀図 | 青根九江 | 3幅 | 紙本墨画 紙本淡彩 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 11 | 月に秋草図 | 青根九江 | 1幅 | 絹本墨画 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 12 | 梅図 | 青根九江 | 1幅 | 紙本墨画 | 江戸時代後期 | 当館 | 全期間 |
| 13 | 松鶴長春図 | 青根九江 | 1幅 | 絹本著色 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 14 | 松鶴長春図 | 青根九江 | 1幅 | 絹本著色 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 15 | 二雅小禽図 | 青根九江 | 1幅 | 絹本墨画 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 16 | 花鳥図 | 青根九江 | 1巻 | 紙本淡彩 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 17 | 鳥図 | 青根九江 | 1巻 | 紙本淡彩 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 幻の山水 | | | | | | | |
| 18 | 山水図 | 青根九江画 貫名崧翁跋 | 12枚 跋1枚 | 紙本淡彩 | 画：江戸時代後期 跋：嘉永7年 1854年 | 個人 | 全期間 |
| 19 | 山水図 | 青根九江画 貫名崧翁賛 | 1幅 | 紙本墨画 | 江戸時代後期 賛：嘉永7年 1854年 | 当館 | 全期間 |
| 20 | 山水図 | 青根九江 | 1幅 | 紙本淡彩 | 江戸時代後期 | 個人 | 全期間 |
| 粉本 | | | | | | | |
| 21 | 画帳 | 青根九江 | 1冊 | 紙本墨画 | 江戸時代後期 | 個人 (滋賀大学経済学部附属 史料館寄託) | 全期間 |
| 22 | 画帳 | 青根九江 | 1冊 | 紙本墨画 一部紙本淡彩 | 江戸時代後期 | 個人 (滋賀大学経済学部附属 史料館寄託) | 全期間 |
| 23 | 画帳 | 青根九江 | 1冊 | 紙本墨画 | 江戸時代後期 | 個人 (滋賀大学経済学部附属 史料館寄託) | 6/21-7/1 |
| 24 | 山水図 | 青根九江 | 1枚 | 紙本墨画 | 江戸時代後期 | 個人 (滋賀大学経済学部附属 史料館寄託) | 7/2-7/12 |
| 25 | 山水図 | 青根九江 | 2枚 | 紙本墨画 | 江戸時代後期 | 個人 (滋賀大学経済学部附属 史料館寄託) | 7/13-7/23 |

| 資料名称 | 作者 | 数量 | 品質形状 | 制作年 | 所蔵者 | 展示期間 |
|------|-------------------|----------------|------|------|--------------------|------------------------------------|
| 京と彦根 | | | | | | |
| 26 | 『平安人物志』 | 弄翰子（編） | 1冊 | 紙本木版 | 嘉永5年版 1852年 | 京都府立京都学・歴彩館 全期間 |
| 27 | 花鳥図（諸家「天籟雅帖」のうち） | 青根九江 | 1枚 | 紙本淡彩 | 天保11年 1840年 | 京都府 （京都府京都文化博物館 保管） 全期間 |
| 28 | 青根九江書状 奥野武右衛門宛 | 青根九江 | 1通 | 紙本墨書 | 江戸時代後期 年未詳4月4日 | 個人 （滋賀大学経済学部附属 史料館寄託） 全期間 |
| 29 | 青根九江書状 奥野武右衛門宛 | 青根九江 | 1通 | 紙本墨書 | 江戸時代後期 年未詳5月6日 | 個人 （滋賀大学経済学部附属 史料館寄託） 全期間 |
| 30 | 金子預証文 青根三郎右衛門宛 | 奥野武右衛門・吉 太郎 | 1通 | 紙本墨書 | 安政2年9月10日 1855年 | 個人 （滋賀大学経済学部附属 史料館寄託） 全期間 |
| 師と弟子 | | | | | | |
| 31 | 花鳥図 | 山本梅逸 | 1幅 | 絹本著色 | 江戸時代後期 | 当館 全期間 |
| 32 | 山水図 | 山本梅逸 | 1幅 | 紙本墨画 | 天保7年 1836年 | 当館 全期間 |
| 33 | 遠浦帰帆に五香之図 | 青根竹泉 | 1幅 | 絹本著色 | 大正2年 1913年 | 当館 （木俣行雄氏・正雄氏 寄贈） 全期間 |
| 34 | 花卉草虫図 | 不詳 | 1巻 | 紙本著色 | 江戸時代後期～ 明治時代 | 個人 （滋賀大学経済学部附属 史料館寄託） 全期間 |

写真解説

*番号は作品リストの番号と一致します。

6 ^{かちょうず}花鳥図 青根九江筆 1幅
絹本著色
縦164.3cm 横85.9cm
江戸時代後期
個人蔵

九江の代表作とも言うべき作品。縦160センチ、横86センチ程の大作で、太湖石を囲むように、多種の花弁、小禽、昆虫を描いています。画題や画風など、その源流は、中国の明清画と考えられます。

師・梅逸の花鳥画の大作は、画面を花卉や岩で埋め尽くし、筆法鋭く、躍動感とともに厳しさのようなものを感じさせます。それに対し九江の花鳥画は、華やぎを保ちつつ、穏やかで柔和な印象を与えるものが多く見受けられます。その中にある本作は、梅逸作品に肉薄する華麗さ、清新さが際立つ、渾身の作です。

彦根の有力な支援者、奥野武右衛門のために描かれたものと考えられます。



(部分)

12 ^{うめず}梅図 青根九江筆 1幅

紙本墨画

縦178.0cm 横97.8cm

江戸時代後期

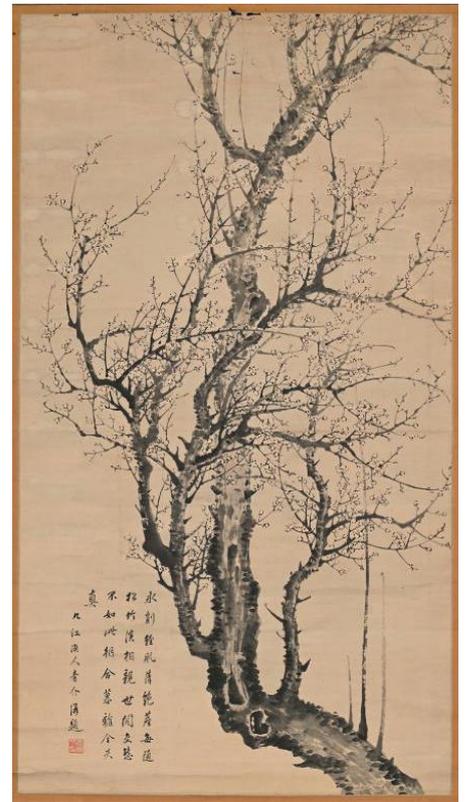
当館蔵

画面いっぱいに咲き誇る梅を水墨で描いた大幅。墨の濃淡を効果的に用い、速い筆運びで勢いよく表現しています。中国・元末明初の文人画家、王冕(1335-1409)の作がもとになっているものとみられます。

画面向かって左下には、賛文および作者の落款があります。梅の清らかなさまと松竹梅の関係を詠んだ賛が添えられることにより、文人意識あふれる作品となっています。文人画では「詩書画一致」の思想を理想とし、画中に詩をしたためることがしばしば行われます。

氷削軽肌清絶塵 毎随松竹淡相親
世間交態不如此 朝合暮離全失真
九江漁人青介併題 (「青根介印」白文方印)

- *清絶…非常に清らかなこと
- 淡相親…「莊子」山木篇にある「君子の交わりは淡きこと水の如し」に拠るか
- 交態…交際の状態
- 失真…もとのままでない



18 ^{さんすいず}山水図 画) 青根九江筆 跋) 貫名菘翁筆 画12枚 跋1枚

紙本淡彩

各縦20.6cm 横17.2cm

画) 江戸時代後期 跋) 嘉永7年(1854)

個人蔵

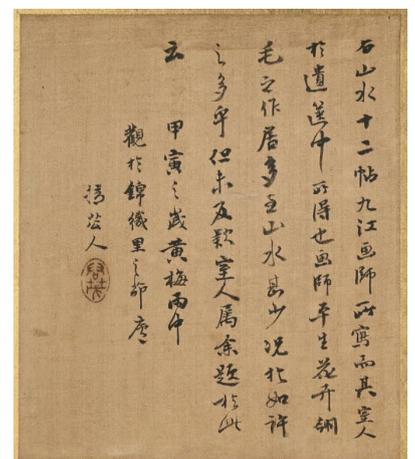
九江が没したのは嘉永7年(1854)4月のことでした。没後間もない梅雨の時分、貫名菘翁(1778-1863)によって九江の山水図に跋が添えられました。それが本作です。菘翁は阿波国徳島出身で、当時の京の代表的な儒者かつ書家、文人画家でした。生前の九江と交流があったものとみられます。

菘翁の跋によると、この山水図は九江が描いたもので、彼の遺品の中から見つけたものである、九江の作品は「花卉翎毛」が大部分を占め、山水画は大変少ない、まだ款記がないので九江の妻に依頼されて私がここに記す、といった内容です。翎毛とは鳥獣のことで、九江は、いわゆる花鳥画をおもに描いていたということになります。実際に、現存が確認できる山水図は少なく、本作は貴重な作例と言えます。

*跋…書物や書画の終わりに、その来歴や編著の感想・次第などを書き記す短文。



(山水図12枚のうち)



(貫名菘翁による跋)

26 『平安人物志』^{へいあんじんぶつし} 嘉永5年版 1冊

弄翰子編
紙本木版摺
縦15.2cm 横11.0cm
嘉永5年(1852)
京都府立京都学・歴彩館蔵

『平安人物志』は、江戸時代中後期に京都在住の文化人を記載した人名録で、学問修業に上洛する人へ向けて編纂されたものと考えられています。明和5年(1768)に始まり、慶応3年(1867)の9版まで、ほぼ10年ごとに増補改訂されました。

九江は、嘉永5年(1852)版の「文人画」の項に掲載されています。当時数えで48歳、蛸薬師室町東に居住していたことが分かります。文人画家は37名中の1人として掲載されたということは、当時京で知られた存在であったと言えます。

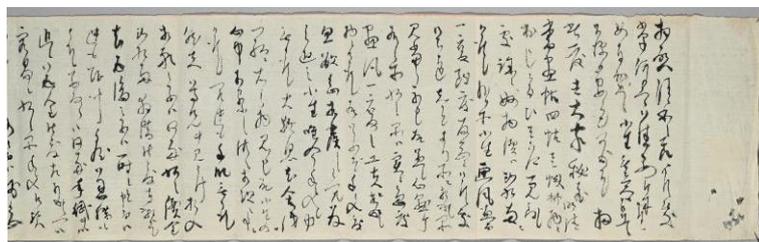


(青根九江の部分)

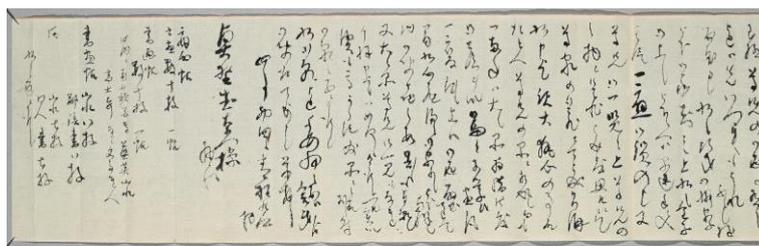
(表紙)

28 青根九江書状^{あおねきゅうこうしよじょう} 奥野武右衛門宛^{おくのあて} 1通

紙本墨書
縦16.9cm 長114.3cm
江戸時代後期 年未詳4月4日
個人蔵
(滋賀大学経済学部附属史料館保管)



(冒頭)



(末尾)

九江の支援者、奥野武右衛門に宛てた九江の書状。売りに出された明清書画帖を購入するために代金20両の拝借を願い出ています。

九江はかねてより画風を一変したいと考え、その拠り所となるような作品を探しているところで、まさしくこの作品がそれに値すると言っています。奥野氏が入手したいのであればそうなさってください、ただし、自分はかなり執心していますので、その場合、1~2年は手元に置かせてください、この品から学び、画風が一変しましたらお返しします、と続きます。

当時の日本の画壇は、強い文人志向でもって明清画から多大なる影響を受けていました。よって、明清書画の需要は極めて大きく、多くの作品が日本にもたらされました。

九江は師の画風の枠にとどまることなく、質の高い明清画を直接的に学ぶことで画風を一変したい旨をこの書状で力強く語っており、九江の画に対する意識を知る貴重な書状です。